命の次に大切なお金を預かるということ

信州大学教育学部附属松本中学校３年　　望月　美里

私の父は税務署で働いています。父は少し変わっています。

疲れた疲れたと言って帰宅したにも関わらず、仕事中に気になったと税法について遅くまで調べたり、税法の句読点がここについているからこう解釈するべきか？などと夕食の準備をする母を相手にブツブツ言っていたり、休日に税金の専門紙をじっくりと読み込んだり、明日はこれをやってそれを調べてその前にあれをチェックして…と、ともかく税法と仕事について常に考えているような人です。休日前はウキウキとして休みを心待ちにしている様子なのに、いざ休日になると税法について調べ始める。父のそんな矛盾した行動は、私にはとても不思議で、そんなに税法と仕事が好きなのか。休みの日くらいゆっくりすればいいのに。と小さいころから思っていました。

私が小学生のころ、税金が何に使われているのか、授業で教わる機会がありました。救急車や消防車などの緊急車両を出動させるのに必要なお金。学校の机や椅子、黒板を買うお金。災害時に復旧のために使われるお金。生活に困窮した人を助けるためのお金。国のために働く人たちのお給料として使われるお金。そして、世界の人々を助けるためにつかわれるお金。人々が安心して、安全に快適に暮らすために必要なたくさんのお金は、国民から集めた税金で賄われていることを知りました。

では、父の仕事は？

父は、私たちの生活を支えるための税金を正しく、公平に集めるために頑張っているのだと思い、父が休みの日にまで税法に振り回されている理由が少しだけ分かった気がしました。

父も母もよく「税務署は命の次に大切なお金を預かる所だから。」と口にします。税金とは、少しでもみんなが暮らしやすくするために使われるべき大切なお金です。課税には公平と正確が求められます。一方で、少しでも不公平があったら税務署への信頼がなくなり、国民の税金を納めようという気持ちを奪いかねないと思い少し怖くもなりました。

父が、常に税法について考えている様子なのは、税金の窓口となる税務署の仕事に責任を持ち、誇りを持って仕事をしているからなのでしょう。

私は、中学校で生徒会の役員をしています。辛いことや大変なこともありますが、より良く楽しい学校生活のためにはなくてはならない仕事です。私も父のように、自分の仕事に責任と誇りを持ち、最後までやり抜きたいと思いました。